

# 令和3年度第2回沖縄県公立大学法人 沖縄県立看護大学評価委員会 議事概要

## 1 開催日時等

- (1) 日時 令和3年10月21日(木) 10時00分から12時00分まで
- (2) 場所 県立看護大学 1階教授室

## 2 出席者等

### (出席)

- 前津 榮健 委員 (学校法人沖縄国際大学理事長兼学長)  
浅田 尚紀 委員 (公立大学法人奈良県立大学副理事長兼学長)  
平良 孝美 委員 (公益社団法人沖縄県看護協会会長)  
涌波 淳子 委員 (一般社団法人沖縄県医師会理事)  
屋嘉比 政樹 委員 (日本公認会計士協会沖縄会会員)

### (欠席)

なし

以上 委員5名中5名出席

## 3 会議次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標(案)について
  - (2) 公立大学法人沖縄県立看護大学中期計画(案)について
- 3 閉会

#### 4 配付資料

- ① 会議次第
- ② 座席表
- ③ 沖縄県公立大学法人沖縄県立看護大学評価委員会名簿
- ④ 資料 1 公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標（案）新旧対照表
- ⑤ 資料 2 公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標（案）
- ⑥ 資料 3 公立大学法人沖縄県立看護大学中期計画（案）
- ⑦ 資料 4 中期計画（案）における数値目標一覧
- ⑧ 資料 5 公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標（案）・中期計画（案）対象関連図
- ⑨ 資料 6 公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標（案）・中期計画（案）項目比較表
- ⑩ 参考資料 1 【参照条文】地方独立行政法人法
- ⑪ 参考資料 2 沖縄県公立大学法人評価委員会運営要綱
- ⑫ 参考資料 3 沖縄県公立大学法人評価委員会傍聴要領
- ⑬ 参考資料 4 沖縄県公立大学法人評価委員会条例
- ⑭ 参考資料 5 公立大学法人沖縄県立看護大学定款
- ⑮ 参考資料 6 公立大学法人沖縄県立看護大学の組織体制（案）
- ⑯ 参考資料 7 沖縄県公立大学法人評価委員会の役割について
- ⑰ 参考資料 8 スケジュール（案）
  
- ⑱ 当日配布資料 中期目標及び中期計画（案）に係る検討経緯等について（案）

## 5 議事要旨

【委員長】 会議次第に基づき、議事を進めていきたいと思えます。1-(1)「公立大学法人沖縄県立看護大学中期目標（案）」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 参考資料⑧を用いて、法人化スケジュールの説明。資料①を用いて、中期目標（案）に対する委員からの意見、及び委員の意見に対する修正案の説明。

【委員長】 事務局から説明がありましたが、何かありましたらお願いします。

【委員】 2点申し上げたいです。中期目標は中期計画と一体としてみた方がいいと思えます。今回、中期計画を見ていくと気になるところが2点あります。

1点目は、資料1の2ページの学生の確保の「公平」という言葉を入れることについて、「公平」というのは当たり前であって、書かなくていいのかなという印象です。

もう1点は、4ページの採用基準で追加された「教職員の採用基準及び評価基準を定め、適正な運用を行う」については、中期計画レベルの話かなという印象です。ウの項目とも重複するので、今回挿入した部分は中期計画にも書いているので、あまり目標に書きすぎない方が全体の収まりがいいという印象です。

【委員長】 委員から、2点指摘がありましたが。

【事務局】 委員の意見を踏まえ、修正したところですが。他の委員の意見も拝聴したいのですが、いかがでしょうか。

【委員】 委員のおっしゃるとおりで、中期目標と中期計画の関係を踏まえると、「公平」は入れる必要はないかなと思えました。

【委員長】 「公平」を省いても支障はないと事務局はお考えですか。

【事務局】 委員から「公平」は省いてもいいということですので、元の案に戻してもよろしいでしょうか。

【委員長】 他の委員の方、今の点について、何かありますか。よろしいでしょうか。

(委員からの意見はなし。)

【委員長】 あと1点目については私が発言したかと記憶していますが、芸大の中期目標には入っていると思えます。確かに、かぶっている部分はあるかと思えますが、これはきちんと入れた方がよからうという考えもあって提案しました。2つの公立大学の中で、看護大学だけ入っていないのはなぜかと思われるので、提案した次第です。

**【委員】** どちらでもいいのですが、中期計画で具体化されているというのが1点と、芸大と看護大は違うので、県が要請する内容は違うのはいいのかなと思います。芸大は多様な領域と評価基準が難しい分野であるので、採用基準や評価に客観性を高めないと難しいと思いますが、看護の領域の場合は、審査基準や評価などについてはある程度熟れている分野だと思います。中期計画の中で努力して実現してほしいという意味合いを込められるのはよいですが、芸大と看護大が横並びである必要はないと思います。

**【委員長】** おっしゃるとおりですが、評価基準や採用基準の定め方が大学で異なってくるのは、当然の話と思いますが、議会審議のことを考えると、看護大学に入っていないことを懸念しています。教職員の採用基準や評価基準が両大学で違うことは理解しているつもりですが、ここの部分はこれまでの経緯を考えると残したいなと思いますが。他の委員の皆さんはいかがでしょう。

**【委員】** 委員長のおっしゃるとおりでもいいと思います。

**【事務局】** 基本構成は芸大をベースにしています。今日、初めて中期目標と中期計画を対比させてご覧になるので、そこで修正が出るのは必要と思っています。目標と計画の関係性をご理解いただき、再度、疑問が出てきましたら、追加で修正もあり得ると思います。ただ、議会で議決を得るときは、芸大との関係で、重複気味ではあるが入れさせていただければと思っています。

**【委員長】** 委員、いかがでしょうか。

**【委員】** 丁寧に書いているということで結構だと思います。

**【委員長】** よろしいでしょうか。

**【委員】** 異論はないですが、目標と計画の文言が一緒なのは違和感があるので、段差を付ける必要があると思います。計画をもう少し掘り下げるなどの修正が必要かと。同じ文言になっていることで、違和感を持たれる人もいるのかなと思います。

**【委員長】** これから計画を見ていきますので、その点を踏まえて考えていきましょう。その他の部分はいかがですか。特になければ、本日の評価委員会での審議を踏まえ、当該中期目標（案）を2月県議会に議案として提案することとしてよろしいでしょうか。

(委員同意)

ありがとうございます。

では、次の議事の「公立大学法人沖縄県立看護大学中期計画（案）」について事務局から説明をお願いします。

**【事務局】** 資料③、資料④及び当日配布資料を用いて、中期計画（案）、中期計画（案）検討経緯、数値目標、実績推移等を説明。

**【委員長】** ご意見等がありましたらお願いします。

**【委員】** 年度計画について、できれば中期計画を作る段階で、ある程度見通しを持たれておくといいかと思います。年度計画は更に詳細になりますので、そこを見据えた作り方が大事だと思います。

それから、6年間の計画なので、6年間のタイムスケジュールも早めに作られたらいいと思います。というのは、項目によっては途中で完結するもの、6年間継続するもの、発展させるものとあるので、それらのタイムスケジュールを見ておくと、年度計画への落とし込みが楽になるので大事かなと思います。

法令上、4年終了時に中間評価を義務付けられています。4年目を1つの節目としてタイムスケジュールを持たれるといいと思います。特に、目標値を設定していますが、これは終了時だと思いましたが、4年目にある程度の目安としてのもを持たれているといいと思います。逆に、評価委員会側も評価をしないとイケないので、何かその手がかりがあるとありがたいなということでもあります。

評価の時に数値が独り歩きすることもあるので、数値目標の立て方を区別するというか、内容を整理するといいかと思います。達成目標と努力目標は違うと思いますし、世の中の変動に影響されるものは絶対達成できるとは限りません。なので、大学側、委員会側がその数値をどう捉えるかは非常に重要だと思っています。相対値で見るのか、絶対値で見るのか。単年度でこの数値を満たすのか、ある年数を平均値で見るのか、変動幅が大きい数値の場合はその区別もある程度つけていくと、大学も数値にとらわれなくて、変動はあるけれど全体としては目標を達成しているのだという見方ができると思いますので、そこは項目の内容次第だと思いますので、そこも含めて丁寧に設計されるといいかと思います。

数値目標は必要ですし、評価委員会もこれに従って評価するしかないです。その時に、教育研究には非常に努力しているけれど、数値に達していなかったことをどう評価するかは結構難しいところです。大学の努力だけではいかんともし難いところもあったりします。そのことを含めて考えると、法人側としても緻密に設計しておく方がいいかと思うし、評価委員会としても有り難いと思っています。

**【委員長】** 委員から指導、堤案がありましたが、計画作り等についてどのようにお考えですか。

**【事務局】** 年度計画に関しては過去の6年間の結果を見ながら、多くは検討中ですので、ご指摘のとおり、中期計画も適切に作成したいと思っています。

4年目の評価ということをお聞きして、3年間の評価ということでもよろしいでしょうか。3年間分を4年目に評価するという事です。

**【委員】** 4年終了時に6年終了時の見込みを評価するという制度になっています。

**【事務局】** それも自覚していきたいと思います。数値目標については、どうしても数字に目が行ってしまうので、反省しておりますが、ご意見にありましたとおり、数値目標の立て方について、数字だけ見るのではなく、数値は達成できるようなものにする予定ですけれど、世の中の変動や数値だけでは評価できない部分に関しては定性的な部分で記述ができるように、項目を足していくことが大事なのかなと思いました。現在の計画は単年度で作成していますが、単年度で達成することができないものは4年目、6年目の節目を含めて検討して行きたいと思っています。

**【委員長】** 他にありますか。

**【委員】** 確認ですが、別科助産について、今後、専攻科を検討されているということですが、この6年間の間で行われますか、それとも超えてからですか。

**【事務局】** (大学としては) 6年間の中で専攻科に移行したいと考えております。令和7年度から学部教育の中での助産師教育がなくなるので、それに間に合うように、専攻科に移行できるような計画を立てたいと考えております。

**【委員】** 6年間の中でということでしたら、別科に関する目標とかもありますので、そこは気をつけないといけないところかなと。今、沖縄県では就業助産師が500人に足りない状況で、別科で20人養成しているのは看護大学ですので、そこが需給に影響してくると困りますので、県全体の助産師の数に影響をきたさないような目標、そこも勘案していかないといけないのかなと。少し難しいところがあるのかなと懸念しています。意見というよりも、私の心配でした。

**【委員】** 今日頂いた資料の各大学の成果目標値を見ると、成果目標に数値を入れていたり、目標値の記載はなかったり、各大学でバラバラな状況です。これは本当に成果指標の数値を入れられないのが疑問で、運営側として、成果目標の数値を入れることに積極的なのか、消極的なのかをお聞きしたいと思います。

**【事務局】** リーズナブルな目標値と考えています。過去の教育実績から見ても。特に、国家試験の合格に関しては、数値目標として出していないが、100%を目指して教育しています。その中では100%に至らないケースはありますが、100%を実現しようという気持ちでやってきているので、実現可能性としての適切な値を示していると考えていただいいていいと思います。

**【委員】** 具体的に合格率とか、数値目標が出せるのはいいと思うが、具体的な数値目標が出されていない項目についてはそれでいいのかと。そこを定性的に書くというのであれば、掲げた計画に対して具体的なことが果たしてできるのか疑問だったのでお聞きしたのです

が。例えば、資料5の3枚目の中項目の成果指標について、財務内容の改善に関する目標に係る成果指標に対してはいいのかなど。それ以外の中項目に対しての指標として、経常予算額に占める自主財源額割合はどうなのか。例えば、一番下の項目「その他業務運営に関する重要項目に係る成果指標」について、果たして、この指標は対応していますかと考えると、ただとりあえず入れてみたとしか見えなくて、その上の「自己点検、評価及び情報管理に関する目標に係る成果指標」の指標が自主財源額割合とすると、？とってしまいます。この辺の関係性をどう考えているのか、お聞きしていいですか。

数値目標を入れないのであれば、入れないでいいかと。ただ、間違った数値目標を入れてしまうと、全体としてミスリードになってしまうので。そこはスタンスによるのかなど。どうしても、この中項目に入れていきたいということであれば、数値目標をブレイクダウンした項目から拾って、入れるべきなのではないかと思っています。

**【事務局】** 他大学を確認したところ、他大学も業務運営の目標設定が難しいということがわかりました。その中で現在出したのが25%自主財源ということですが、これについては、今の段階では中期計画で目標設定は難しいですけど、年度計画の中でこの中項目に当たるものを検討していこうと。委員の意見を踏まえて、中期目標を達成するための計画、具体的な指標については年度計画に入れていこうというのが現段階の大学の考えです。

**【事務局】** 補足しますと、PDCA計画構想を作って、それを回すということは一般化しています。そのとき重要なのは、目標値をなるべく定量化した数値を置くと。従来の行政は定性的なものであったため、評価ができない。その反省を踏まえ、それが一般化してきています。ただ、定量化することができない部分もありますが、極力定量化していくということでないとなかなか評価ができないと思います。

今回、追加で資料を配付したのは、目標値の置き方、なぜそういう置き方をしているのかの理由をご説明して、この内容にご意見があればいただきたいと考えたからです。

**【委員長】** 委員、先ほどの説明でよろしいですか。

**【委員】** 先ほどの説明によると、中項目の具体的な指標は年度計画で作られて、それに従って業務を行っていくということでしょうか。

**【事務局】** はい。

**【委員】** わかりました。

**【委員】** 成果指標としてマッチしていないものを無理に入れるというのはよろしくないと思います。その点は見直した方がよいと思います。

ただ、数値目標を設定し、それに基づいて評価するのが世の中の流れですが、大学という機関は、結果だけを見る組織ではなくて、プロセスも見ないといけないです。評価委員会の役割はこのプロセスを評価することだと思います。なぜ、このような評価をしたのか

という説明は、評価委員会に説明責任があると思います。

大学はかなり様々な数値を収集していると思います。ここに数値目標として挙がってないものも含めて、大学が収集・分析しているものは評価委員会にも挙げてほしいし、社会にもできるだけオープンにしてほしいです。そういうものが、目標設定はされていないけど、活動の内容がガラス張りになって見えてくると思います。

できるだけ情報を公開していただければ、目標が達成できたから評価が高いなどの単純な評価ではなく、丁寧な評価ができると思っています。大学にお願いしたいのは、努力が見える様々な数値データを出していただいて、それに基づいて評価委員会が評価を行えば、委員会が評価結果を対外的に説明するときに、説得力があるのではないかと思います。

**【委員】** 6年後にどんな形になってほしいというのがまずあって、それが成果指標に出てきて、それから単年度計画の中で、毎年何をどうしていこうになるのかと思いました。6年後のイメージを作っておくと書きやすくなるのではないかと感じました。

**【委員長】** 委員から適切なアドバイスがありました、いかがでしょうか。

**【事務局】** 6年後の姿をイメージしておろしてくる、大事なことだなと思いました。これまで年度単位で計画や取組を考えてきたところです。例を申しますと、法令上の配慮が必要な学生等の対応について課題として感じておりましたが、規程がなく今ガイドライン等を作成中ですが、長期的に6年後どうなってほしいかという観点がなかったと反省しております。今のご意見は重要な意見として、今後、他の項目を検討する際にも考慮したいと思います。

**【委員長】** 他にありますか。

**【委員】** 別件ですが、13ページ注3のところで、運営費交付金の算定方法や金額の記載がありますが、中期計画には6年間の予算を記載しますので、総額として6年間の見通しの予算を組まれると思います。

法人化した時のメリットは運営費交付金を安定的に見込めることで、6年間で計画的に様々なことが実施できることだと思います。なので、基盤財源としての一般運営費交付金は確実に県で手当していただきたい。もう一つは、目的積立金の考え方を県と大学で方針を確認されるといいと思います。

一般的に、余った予算は県に返還だと思いますが、法人運営上は、努力して残した分は目的積立金として積み立てていって、必要なところに使えるというのが制度ですので、その点はよく話合われて、制度を導入されるといいと思います。法人制度の趣旨を活かして、法人が自らの努力で発展できるような後押しを県がしていただければと思います。

**【委員長】** 現在の話合いの状況はどうなっていますか。



**【事務局】** 方針を策定して、大枠を作成しています。その中で、運営費交付金についても交付税をベースに毎年度交付していくと。ただ、それ以外に、大規模な修繕は県が持つという大枠で整理しています。余った交付金についても、翌年度以降に積み立ていくという仕組みも作成しています。先ほどの毎年度というのは、それを毎年度確認して、必要な交付金を査定していくということで安定的な支援をする形を作っています。

**【委員】** ありがとうございます。

**【委員】** 中期計画の中項目は年度計画に折り込むということですが、中期計画の中項目の達成数値として折り込まれているものもあれば、年度計画に折り込まれているものもあり、バラバラな状況になっていると思います。この辺の整理をしていただきたいと思います。

その流れで、話した資料5の3ページの「業務運営の改善及び効率化に関する目標に関する成果指標」から下の4項目を見直した方がいいのかなと思います。

**【委員長】** スケジュールの観点から、いつから調査検討して、いつから実施して行くとか、見直しを図るといふスケジュール表を出していただけたら理解しやすいと思います。法人化して、いい方向に変わると見えるようにしたら、県に対する予算的な要望も示しやすいのかなと感じたところです。

他に何かありますか。本文の文章や数値目標はいかがですか。

確認していただきたいのですが、6ページの人材確保と育成のところ、年齢構成、男女比とあるのですが、最近は採用に当たっても男女とか、年齢を記載できないとなつていますが、これを中期計画に書いていいのかどうなのか。別の表現でできないものなのか、外部に出るものにこれを書いていいのかどうか確認していただきたいと思います。

**【委員】** 年齢構成に関しては、大学設置基準に年齢構成が偏らないようにと規定されていますので、年齢構成についてはやむを得ないかなと思います。男女比の記述も世間でどう見えるか重要な観点かなと思います。

**【委員長】** そこは検討していただくということで。もう1点は、障害がある学生、教職員に対する記述がないので、そのあたりはどのように考えていますか。

**【事務局】** その件に関しては法律ができましたので、2、3年前から大学としてどのようにしていったらいいのかを学内で検討中です。今後、提示できるようにしたいと思います。

**【委員長】** 他にありますか。

**【委員】** 現在、看護大学の学生の男女比はどのようになっていますか。

**【事務局】** 9対1です。約1割が男性です。全国的に見ても、本大学は男性が多いと感じております。

**【委員】** 私の病院の中でも、まだまだ足りていませんが、最終的には、同性看護、同性介護にもっていききたいなと思っております。男性の入学者が増えたらいいなと思いました。

**【事務局】** 戻りまして、中期目標と中期計画のところで10ページの2の(2)の2行目までは中期計画です。中期目標は資料1の4ページの右側2の(2)のアですが、コアな部分是一緒ですが、全く同一ではないです。今日ご意見がいただければ、そこで決めて、もし、文言修正を含めて、必要であれば、事務局で預かって、委員に確認するという作業をしたいと思いますがいかがでしょうか。

**【委員長】** どちらかの表現を削るとか、文言を変えたいということですか。

**【事務局】** 先程のご意見で、中期目標と中期計画の記載が同じ表現ではまずいのではないのですかとご意見がありましたので、それなら中期計画の表現はもっと細かくやるのかということになりますし、多少表現が違うのであればそのままでもいいかと。芸大との関係性で同じ表現を置いといたらという話をしたところですが、そのあたりが議論になると思います。

**【委員】** 6年後のあるべき姿がどうなのかということを考えて、そこに向けて今どういう現状なのかを照らし合わせ、そのギャップが課題になってくると考えます。その課題を解決するためにどういう計画を立てるのかになると思います。その視点で考えると、同じ表現ではなく、一段具体になった形で出せるのではないかと思います。中期目標はそのままにして、課題はあると思いますので、中期計画で一步踏み込んだ表現をした方がいいのかなと思います。

**【委員長】** 委員の意見を踏まえて、中期計画の2行をもう少し具体的にできればと思いますが、どうですか。

**【事務局】** 中期目標から削除していただきたいのが個人的な意見です。ご意見のとおり、課題は多数あります。人材の確保に関しましては、教員の定数を満たせるように、人材育成を自分たちの大学で中長期的に見据えてやっていきたいと思えます。それを可視化して、出して行くことは大事なのかと思いましたので、6年後の姿という形で記載できるかと思いました。

**【事務局】** そのあたりの表現については、意見を検討させていただいて、ご提案させていただきたいと思えます。

**【委員長】** よろしいですか。それでは、中期計画（案）については、今回の意見を踏まえて、次回の評価委員会に修正案を提示していただくようお願いします。

それでは、予定していた議事は全て終了していますので、これで終了したいと思います。

す。貴重なご意見ありがとうございました。